

故尾崎都司正先生を悼む

商学部 秋 元 浩 一

名古屋学院大学商学部教授尾崎都司正先生には、かねてより入院加療中のところ薬石効無く、2011年8月14日に名古屋市において永眠されました。享年63歳、先生の一日も早いご快癒を願っていた者にとっては、あまりに早い旅立ちに神のいたずらとしか思えない悲しみの中に茫然と立ち尽くすばかりです。ご家族に見守られながらご臨終をお迎えになられたと伺っておりますが、心からご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、1949年8月21日愛媛県新居浜市にお生まれになりました。愛媛県立新居浜西高等学校から同志社大学工学部に進学され大学院化学工学研究科を経て、三井東圧化学株式会社に勤務されました。お父上が住友化学、恩師が昭和電工なのにあえて三井系を選択された果敢に挑戦する姿勢は、その後の仕事にもいかに発揮されました。その研究開発力と分析力を高く評価されて、株式会社大力工業所の技術部長に迎えられ、その後、株式会社オージス総研コンサルティング部、株式会社関西新技術研究所情報通信研究センター主席研究員として、情報通信・情報システムの分析と研究開発を手がけました。その成果は「質的選択モデルとその応用に関する研究」としてまとめられ、1999年に同志社大学より博士（工学）の学位を授与されています。その後、(財)人間工学研究センター出向し、高齢者の形態変化にも取り組まれていましたが、2001年4月には、名古屋学院大学商学部に教授として就任されました。

本学就任後は経営情報分野を担当し学部と大学院で10年間にわたって多くの学生を世に送り出してきました。授業では学問の基礎を指導するとともに自ら行っている先端的な研究を織り交ぜながら企業がイノベーションを起こし社会が発展し続けるには大学において学び研究することがいかに重要であるかを説き続ける姿が印象的でした。先生は、本学就任を新たな人生の出発点とし社会を担っていく学生の新たな糧にふさわしい場として自ら教育と研究に没頭する姿勢を堅持し多くの著作物も世に送り出してきました。ご業績の中でも、先生のAHP理論は難しいが役立つ理論として企業経営者・幹部職員はもとより世界の研究者にも重要な知見を与え斯界から高く評価されてきました。先生の研究視点は企業現場が模索するさまざまな課題に始まります。とくに経営効率の新しい考え方、生産管理システムと在庫システム、さらには、需要低迷に対しマーケティングシステムに対する顧客ニーズの把握手法や市場反応分析、戦略的マーケティングシステムと幅広い内容に亘ります。経営の意思決定に焦点をあて経営を科学という視点で捉えなおし人事評価システムと意思決定との関連性から新たな評価モデルを提案し、また消費者行動モデルとして2000年のノーベル経済学賞を受賞したマクファーデンのLogit-Modelをもとに市場反応分析、競争市場構造、戦略的マーケティングについての研究を深めてきました。また、生産管理シ

システムについては多品種・少量生産で納期が決まっている場合の在庫管理とスケジューリングについてORモデルリング法を明らかにしています。情報システムの効果評価は難しい課題の一つですが、これをバランスト・スコア方式と意思決定モデルとの関連性から定量化モデルを構築するなど、先生のご研究は国際学会においても高く評価されてきました。

このように、先生は教育・研究に取り組まれてきただけでなく大学協議会委員などの要職をはじめ教員組合委員長の重責をも担われ、大学の発展に貢献してこられ、学外にあっては学会活動をはじめ企業連携にも力を注がれてきました。先生のご業績の一端を偲ばせていただき、永年にわたり先生から賜ったご指導に対して衷心より厚くお礼申し上げます。先生どうぞ安らかにお休み下さい。